

平成 28 年度「ふるさとやまぐち生活体験活動推進事業」実施報告書

長門市立深川小学校 第 5 学年 (86 名)

平成 28 年 8 月 4 日～8 月 5 日 実施

1 活動のねらい

- 俵山の自然や人々との交流を通して、ふるさと長門の良さを改めて感じ取らせ、ふるさと長門を愛する心を育む。
- 働くことの意義や素晴らしさに気付かせるとともに、民泊を通して人とのつながりの大切さやふれあいの温かさを感じ取らせる。
- 民泊担当の方と一緒に規則正しい生活を過ごし、食事づくりや掃除などの手伝いを通して礼儀作法を身に付けさせる。

2 全体の指導計画 【主な活動地域名：長門市俵山地区】

	期 間	活動の内容	時数
事前指導	7月1日～ 7月18日	○学年集会による、民泊学習の目的の説明 ○活動グループによる、活動目標の設定 ○宿泊グループによる、宿泊目標の設定	4
実施	8月4日～ 8月5日	○体験活動：「そばの種まき体験」 「河川プール体験」 ○民泊体験 ○体験活動：「そば打ち」「押しずし」「パン作り」「能満寺山登山	12
事後指導	9月1日～ 9月8日	○民泊体験の振り返り（学んだこと） ○お礼の手紙を書こう	3

3 活動の展開

8月4日（木）		8月5日（金）	
9:00	学校出発	8:30	俵山中学校体育館集合
9:30	入村式	10:00	体験 3 「そば打ち体験」「パン作り」 「押しずしづくり」
10:00	体験 1 農業体験	12:00	昼食（そば、押しずし）
12:00	昼食	13:00	体験 4 能満寺山登山
13:00	体験 2 プール・沢遊び	15:30	おやつ（パン）
16:30	民泊対面式	15:30	退村式
17:00	民泊開始	16:00	俵山出発

4 実施上の留意点

(1) 活動集団の作り方

全3学級において、新たな人間関係の広がりを目的として、教師が集団をつくるようにした。

(2) 評価における工夫や留意点

活動ごとに振り返りをする中で、児童の学びや、感想を見取ることができるようにした。

5 活動の成果と課題

(1) 成果と課題 (○成果 ●課題)

○ 事前事後のアンケート調査結果から、以下のような変容が確認できた。

「初めて会った大人の人と話ができる」10ポイント向上

「相手の気持ちを考えて行動することができる」10ポイント向上

「体験の中で、できるようになったことがある」60/87人

○ 体験の中でできるようになったこととして、「知らない人に、あいさつができるようになった」「川で遊んで、泳ぐことが好きになった」「家族と強くつながっていることが分かった」など、人と関わることや、自然に親しむことに積極的になった姿が見られたり、家族の大切さに気付いていたりしていた。

○ 児童は、教師が意図的につくった集団での活動において、新たな人間関係の広がりが生まれた。日ごろあまり話さない友だちに対しても、話しかける姿が見られた。

○ 参加した児童の感想

1つは、働くことの意味を知ることができた。仕事をするということは、責任を果たさないといけないということが分かった。

2日間で、人はだれでも、自分から進んで話したりふれ合ったりすると仲良くなれるのかなと思った。

児童の多くが、「ルールやマナーの大切さ」「働くことの大切さ」「人とかかわることの楽しさ」など、多くのことを学んでいる様子が把握できた。

● 民泊の実施前後で、児童の意識の低下が見られた項目に、「いなかで暮らしてみたいと思う」があった。宿泊先の方々からの温かい歓迎に喜ぶ児童は多かった。しかし、家族と過ごすことの大切さや、ふるさとをより大切に思う気持ちの高まりもあり、「いなかで暮らしてみたいと思う」児童数が減ったのかもしれない。

● そばの種まき体験では、農業の大変さを実感することができたが、その収穫を喜ぶ体験はしていない。農業の大変さと喜びなどを、短期間で味わうことは難しいと考える。

(2) 今後の改善点

○ 年間の教育課程に位置付けられた活動なので、民泊の目的と、教科とのつながりを整理することが大切だと考える。今後は実施学年の学習内容を踏まえ、児童の実態に合ったプログラムを学校と実施機関がしっかりと話し合いながら組み立てていくようにしていきたい。



【そばの種まき体験】



【河川プール体験】



【民泊先の方との対面】



【そば打ち体験】



【押しずし体験】



【集合写真】